

「新たに2件が指定されました」

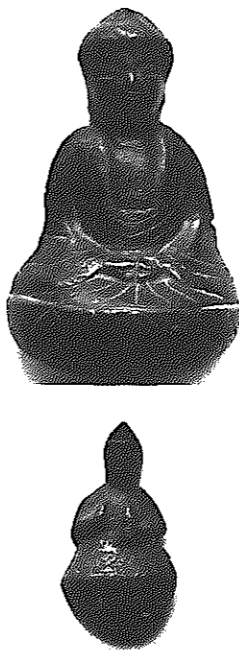
白根市教育委員会は、平成17年2月9日付けで、有願の屏風・掛軸合わせ28点と、出土した懸仏（かけほとけ）2体を、新たに市の指定文化財としました。これにより、市の指定文化財は10件となりました。

●有願筆の屏風・掛軸（28点）



作者の有願は江戸時代末期の僧侶で、新飯田に在住していた。その間、数多くの書画を残した。良寛と交流があったことでも知られており、その作風は、良寛の作品にも少なからず影響を与えたとされている。 ※右は作品の一部

●懸仏



懸仏は、山崎興野地内の諏訪神社周辺から出土したものと伝えられている。南北朝～室町時代前半ごろの仏像の特徴を示しており、考古学的にも貴重なものである。

「これまでに指定された文化財」

●白根紙鳶（いかのぼり）合戦見聞記（仮称）

昭和48年4月12日指定  
弘化4年（1847年）、芙蓉山人が、幅30センチ、長さ6・3メートルの和紙に、当時の風合戦の様子を漢文で書きつづつたもの。風合戦についての文献では、これが最古のものであり、歴史上貴重な文化財である。この文化財については、広報しろね2月1日号の「あなたも風博士」のコーナーでも紹介。 ※このコーナーの中で、文化財の読み方に誤りがありました。訂正してお詫びします

●白根の獅子舞

平成16年4月6日指定



獅子舞は、元来2人立てのものが多く、白根の獅子舞は4人が獅子になる大がかりなもの。8本足の獅子舞は全国的にもめずらしい。

●馬場屋敷遺跡出土品（3017点）

平成5年7月14日指定

この遺跡は、庄瀬集落西側の水田地帯に立地した、面積7500平方メートルに及ぶ、鎌倉時代中期の集落である。多数の木製品、木簡をはじめとする木札などのほか、中国の明の時代を中心とした、貴重な輸入陶磁器類が出土している。

# 白根市指定文化財

## 10件となりました

●白根大凧合戦

平成5年7月14日指定



白根が誇る世界最大スケールの大凧合戦。中ノ口川の上空で凧を絡ませ、川を挟んで綱を引き合う歴史ある伝統行事。

●木造地藏菩薩立像

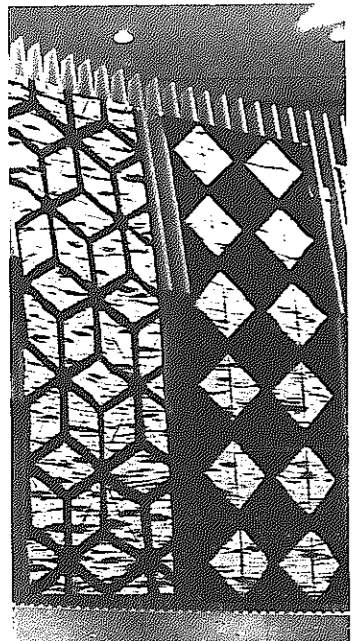
昭和50年2月24日指定



庄瀬の潮山寺に安置されている地藏菩薩立像（像高70センチ）は、寄木造で丸いややうずたかい頭を持ち、面長の顔立ちをしている。なで肩で均整のとれた体に薄い衣をまとうさまが手慣れた刀法で刻まれ、おだやかな姿にまとめられている。室町時代の作と推測される。

●白根絞

平成5年7月14日指定



江戸末期には、日本の三大絞り染めの一つに数えられ、明治後半の最盛期には町予算や米の生産額をも上回る売り上げで、町の繁栄を支えていたが、化学繊維の台頭により、戦前までに一度消滅してしまった。しかし現在、サークルふきのとうがこの伝統文化を再興。後世に伝えようと活動している。

●さるすべり

平成元年9月8日指定  
このさるすべりは、樹齢約350年、樹高11メートル、幹周り1・87メートルで、県内でも古木巨木に類する。



合併後、これらの文化財は新潟市の指定文化財となり、長く将来にわたって引き継がれていきます。

指定文化財に関するお問い合わせは…  
生涯学習課（白根学習館内） ☎372・5533